授業科目	子どものうたと伴奏法Ⅱ					実務家教員担当科目	-
単位	1	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期
担当教員	山路　麻佳、飯田　知津子、井原　花綸、加藤　愛子（保育）、吉冨　淳子						
授業概要	授業はグループに分かれて個別レッスンの形態で行う。 ２年次前期の「子どものうたと伴奏法Ⅰ」終了時点で資格・免許取得要件の２単位を未修得の学生については、あらかじめ設定された課題曲までの履修を目指し演奏技術を高める。既に資格・免許取得要件の２単位を修得済みの学生については、さらに柔軟に保育の現場でピアノ演奏技能を応用できるよう、コードネームを用いた伴奏付けなど個人の進度に合わせて実践的に学ぶ。 個別レッスンに加え、少人数による中間発表の場を経験することで実践力の向上を目指す。						
授業形態	演習			授業方法	各自の進度に合わせて個別レッスンを行う		

学生が達成すべき行動目標	
標準的レベル	「子どものうたと伴奏法Ⅰ」までに学んだことを生かし、各自の進度に合わせて保育の現場でより柔軟にピアノの演奏技能を活用できる実践力と応用力を身につけることができる。 これまでの演習を踏まえて、正しく楽譜を理解するだけでなく曲にふさわしいテンポで表現豊かに演奏することができる。
理想的レベル	これまでの演習を踏まえて、演奏技能をより高めるとともに、ピアノを用いた保育現場での音楽表現にふさわしい教材・作品の選曲をし、表現豊かに演奏することができる。

評価方法・評価割合

評価方法	評価割合（数値）	備考
試験		
小テスト		
レポート		
発表（口頭、プレゼンテーション）	50%	
レポート外の提出物		
その他	50%	課題に対する練習、授業への積極的な参加姿勢

カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング

DP1	-	DP2	-	DP3	-	DP4	-	DP5	○	ナンバリング	CH31332J

学習課題（予習・復習）	１回の学習目安（時間）
提示される課題曲の練習に毎日取り組む。	1

授業計画

第１回	テーマ：オリエンテーション(全教員) 授業概要について説明する 各自の進度に合わせた個別レッスン１ 自由曲１曲
第２回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 2(全教員)

	弾き歌い「小さい秋みつけた」 自由曲（ソナチネ）１
第 3 回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 3(全教員) 弾き歌い「やぎさんゆうびん」 自由曲（ソナチネ）２
第 4 回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 4(全教員) 弾き歌い「雪のペンキやさん」 自由曲（ソナチネ）３
第 5 回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 5(全教員) 弾き歌い「さよならぼくたちのほいくえん」 自由曲（ソナチネ）４
第 6 回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 6(全教員) 弾き歌い「犬のおまわりさん」 初見演習１
第 7 回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 7(全教員) 弾き歌い「手のひらをたいように」 初見演習２
第 8 回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 8(全教員) 弾き歌い「にじ」 初見演習３
第 9 回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン９(全教員) 幼児さんびか「あかるいあさも」 初見演習４
第 10 回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 10(全教員) 幼児さんびか「あさひがぱっと」 コード伴奏のアレンジ１
第 11 回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 11(全教員) 幼児さんびか「うれしいクリスマス」 コード伴奏のアレンジ２
第 12 回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 12(全教員) 幼児さんびか「主われをあいす」 コード伴奏のアレンジ３
第 13 回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 13(全教員) 幼児さんびか「ちいさいこどもがねむるとき」 コード伴奏のアレンジ４
第 14 回	テーマ：各自の進度に合わせた個別レッスン 14(全教員) 演奏発表に向けて課題曲のリハーサル
第 15 回	テーマ：課題曲の演奏発表と授業のまとめ(全教員)
テキスト	小林美実『こどものうた 100』チャイルド本社 『幼児さんびか』キリスト教保育連盟

参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	『大学ピアノ教本』教育芸術社 その他、各自の進度に合わせて教材（楽譜）を適宜提供する。
課題に対するフィードバックの方法	演奏課題については、その都度授業内でコメントを返します。
学生へのメッセージ・コメント	事前に歌詞の内容や記号・用語の意味について理解しておき、２年次前期までの演習で習得したことを踏まえて、弾き歌いの演奏技能や実際に保育現場で活用できる技術を身につけていけるように練習しましょう。 各自の進度や、実習・就職に関する状況等を踏まえて個別に指導していきます。保育の現場で十分に活用することのできる技術を習得するためにも、毎日 30 分程度の練習に取り組みましょう。また弾き歌いの歌詞一つ一つの言葉の意味や季節感などもよく感じ取って、より表情豊かな演奏表現ができるように心がけて下さい。